

ケニア

安全対策

マニュアル

1992年
11月

JICAケニア事務所
専門家安全対策委員会

JICA
407
20
KY
LIBRARY



JICA LIBRARY



1104147121

2484/

ケニア安全対策マニュアル

目次

ページ

1. 安全対策の基本的考え方

1-1. ケニアでの防犯・安全対策	1
1-2. ケニアの治安事情	3
1-3. JICAケニア事務所の専門家安全対策	3

2. 赴任前の準備

2-1. 防犯用品の携行	4
2-2. 自動車の選択	4

3. ケニア滞在中の防犯・安全対策

3-1. 住居が決まるまで（家選びマニュアル）	5
3-1-1. 赴任直後の防犯・安全対策	5
3-1-2. ホテル・アパートメントでの滞在	5
3-1-3. 家の選び方	5
3-2. 日常生活での防犯・安全対策（防犯マニュアル）	7
3-2-1. 住居の防犯・安全対策	7
3-2-2. 業務における防犯・安全対策	9
3-2-3. 生活上の防犯対策	10
3-2-4. 自動車運転時の防犯安全対策	13
3-2-5. 旅行での安全対策	15
3-3. 緊急時の処置と対応（パニックマニュアル）	16
3-3-1. 病気・ケガ時の対応	16
3-3-2. 強盗被災時の処理と対応	16
3-3-3. 交通事故時の処理	17
3-3-4. 騒乱・暴動時等の対応	17
3-4. 帰国前における注意事項	18

4. 参考資料

4-1. 防犯用器具について	19
4-2. 自動車選定の目安	20
4-3. テレビ・ラジオ放送時間／周波数表	21
4-4. ナイロビ市街地・住宅地地図	22
4-5. 主要電話番号・緊急時連絡先	23

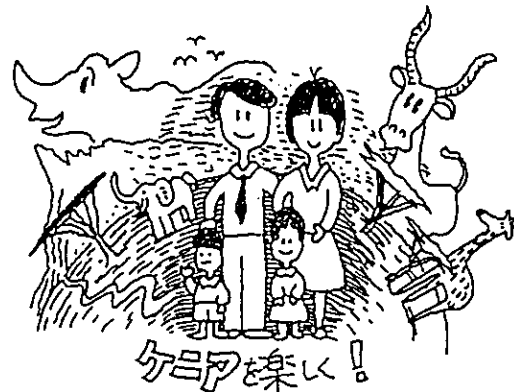
1. 安全対策の基本的考え方

1-1. ケニアでの防犯・安全対策

海外で生活する人は、日本と異なる風土や文化に接することになります。その中には広大な東アフリカの自然、野生動物、ケニアの人々、アフリカ料理、音楽など、楽しい生活の一面や感動の場面があるでしょう。

専門家としてケニアに来る人は、比較的長期にこの地方に滞在するわけですから、十分にこれらを楽しむことができますが、反面いろいろな災害や犯罪に遭遇する機会も増えます。

ケニアでの生活をエンジョイするために、最低限必要な安全に関するルールを知っておく必要があります。安全を確保するための予防策や、万が一不幸にも危険に遭遇した場合に被害を最小限に止める手だてです。



このマニュアルは、ケニア共和国にこれから赴任する専門家と既に赴任している専門家、及びその家族を主な対象としてまとめられた資料です。ケニアで楽しく快適な生活を送るために、注意したほうが良いと考えられる事項を整理しています。危険の認識は個人差が大きいので「絶対にー」ということは言えませんので、これはあくまで参考です。

このマニュアル作成にあたっては、過去の専門家引き継ぎ資料、被害例、安全コンサルタントの指摘、大使館の指導等を基に整理しました。できるだけケニアの実態に沿うよう、また本当の参考になるように、具体的事例と原因を上げるようにしました。

なお、海外に派遣されるJICA専門家のための、一般的安全対策を取りまとめた『JICA専門家の安全対策の手引』も合わせて参照して下さい。

◇いつも用心を怠らない

用心し準備予防に徹すること。病気や交通事故の予防は基本ですので常に注意して下さい。また犯罪は常に新しい手口を生むので、今まで大丈夫でも明日は分からないと用心し行動して下さい。

◇目立たないこと

日本人＝金持ちです。大多数が黒人の中で、肌の色の違う我々はよく目立ち、犯罪者にとっては非常に識別が容易といえるでしょう。そういう中でカメラを不用意に持ち歩くとか、人前で札束を見せるなど厳に慎まなければなりません。運転手の1か月の給与が15000円程度以下ですから、われわれの持ち物や服装などは一般に当地では入手しにくく高価な品であることを忘れない様にしましょう。

◇行動をパターン化しないこと

ケニアでは、テロや誘拐といった手口の犯罪は今のところありませんが、日常の犯罪でも、同じ場所や同じ時間帯で行動する場合の方が狙われやすいと考える必要はあります。92年にはアメリカ人とイギリス人の婦人が日課であった犬を連れての散歩中、複数の黒人に襲われレイプされるという事件がありました。

◇気楽に気長に行動する

心配しだしたら、腹が立ったら、それこそ限りありません。ケニアで生活すると時間や約束が守られないこと、お金を損すること、危険を感じる事等が色々あるでしょう。些細なことでも度重なると精神的疲労となり、睡眠不足にでもなったら肉体的疲労へと変わります。心や身体の健康を維持することが、安全対策の第一歩です。ワイロを求められる等で、お金を損したような気がすると腹立たしくて仕方がないときがあるでしょうが、少々の出費はケニアに住むための必要経費『途上国必要経費』と割り切りましょう。

防犯対策の基本的な考え方は、犯罪者側にとって自分たちが『ハード・ターゲット』（困難な標的、狙いにくい相手）であることに常に心掛けていることです。泥棒や強盗を防ぐには、まず狙われない様にすることが第一であり、そのための具体的な事例や方法を、このマニュアルでは各項目別に示してあります。

1-2. ケニアの治安事情

ケニアの治安はそう悪くもなく良くもない、という評価を聞きます。これは判断の難しい問題ですが、テロや誘拐などの組織だった犯罪が無く、強盗が日常茶飯事に起こることも無いことからこのように言われているのでしょう。

ケニア人は比較的温厚で教育水準も高く、他のアフリカ諸国に比べて安定を好むということも言われています。

しかし最近では、以下のように治安状況は徐々に悪化していることも事実です。

- ・ スリやひったくりの増加
- ・ 車両や家財道具をねらう強盗団
- ・ サファリ中の旅行者を襲う武装強盗団
- ・ 部族闘争とそれに起因する土地闘争による争乱や暴動（ケニア北西部）
- ・ 政治集会にともなう騒乱や暴動
- ・ 難民の流入（ソマリア、エチオピア、スーダン）と武器の流入

現在は、世界の民主化運動の流れから、多党制政治への移行期にあるため、政治的な動きに起因した騒乱や暴動に伴う治安問題に関心が集まっています。部族闘争がらみの騒乱も政治の変化が関係しています。この1年間で物価も2～3割上昇したとの話もあり、庶民の生活も苦しくなるとストレスがたまり、犯罪や騒乱等が起こりやすくなっているとの見方がもっぱらです。

1-3. JICAケニア事務所 of 専門家安全対策

JICAケニア事務所では、専門家及びその家族の安全対策として、

(1) 緊急連絡網の整備、(2) 専門家安全対策委員会の設置、(3) 防犯器具の貸与等を行っています。

(1) 緊急連絡網の整備

JICA事務所は、ケニア国内の治安状況が悪化したり混乱等が予想されるような場合に、各専門家に注意を喚起したり指示を伝える方法として (A)勤務先別緊急連絡網、(B)地区別緊急連絡網を整備し、専門家の移動により毎月更新しています。

着任した専門家は、専門家登録カードを事務所に提出することによりこれら緊急連絡網に組み入れられます。通常は (A)の勤務先別緊急連絡網によって情報の伝達を行います。電話連絡が困難な場合や、地区によって指示が異なる場合には (B)地区別緊急連絡網により連絡し、必要に応じて地区別各班長・副班長に無線機を通じて連絡を取り全専門家に伝達する方法が取られます。

(2) 専門家安全対策委員会の設置

JICAケニア事務所には、所員及び派遣専門家による安全対策委員会が置かれ、JICA関係者の安全対策に取り組んでいます。

(3) 防犯器具の貸与

事務所では専門家の防犯対策の一環として各種防犯器具の貸与をしており、現在のところ (A)停電時非常灯 (B)非常用メガホン (C)ドアロック の貸出しを希望者に対して行なっています。

2. 赴任前の準備

赴任前には可能な限り、前任者やできるだけ多くの関係者と連絡を取り、必要な生活や防犯上の予備知識を得ておくことが重要です。

2-1. 防犯用品の携行

ケニア赴任に際しての準備の中で、防犯器具の準備も重要なもののひとつです。

例えば、懐中電灯は防犯用としてだけでなく日常生活や旅行にも有効です。

また、日頃からニュースなどの情報を得るためにも、ラジオも準備する必要があります。できれば海外向け日本語放送（ラジオジャパン）やBBC等の短波放送が受信可能な機種で放送局別にプリセットができるなどの機能のついた、操作の容易なものが良いでしょう。

（ケニアで受信できる放送局と周波数は、＜別表4-3＞参照）

留守番録音電話は、留守中の緊急連絡を受けたり、相手の声を確認してから応対ができることから、安全・防犯上にも有効なものと考えられます。

防犯用品として他にも有効なものは、日用品店や電気店等で入手が可能ですので、携行品の準備の際には、ぜひ一度ゆっくり御覧になることをお勧めします。

ただし電気器具については、ケニアの電圧に合った器具の日本国内での入手が困難なことや必要な器具の選択が難しいことから、着任後に入居先の状況に応じてケニア国内で購入されるのが良いでしょう。（防犯用器具について ＜別項4-1＞参照）

2-2. 自動車の選択

ケニアでの生活において、毎日の買い物や通勤また国内旅行など、どこに動くにも自動車は必要不可欠なものです。自動車は整備状態が良くないと交通事故につながるだけでなく、故障中の停車時にも盗難や強盗に会う可能性もありますので、常に良好な整備状態を保っておく必要があります。

ケニア国内で購入できる中古車は、概して程度が悪くまた修理技術のレベルも低いので、ケニア滞在中安心して車を使用するためには、新車または中古車を日本から持って来ることをお勧めします。（ケニアは日本と同じ左側通行、右ハンドル車です）

時期によっては、帰国専門家や外国人等から比較的程度の良い車を買えることもあります。

車種を選択に際して、一般的には、修理部品のケニアでの入手が容易な現地生産車種・型式車（部品の互換性のある車種を含む）なら車両維持管理の面から有利ですので、選択条件に考えてよいでしょう。

乗用車かオフロード車かといった機能面での選択は、個人の使用目的や予算とのかね合いの問題ですので、個人の好みの中で選択することになるでしょう。

通常の道路を使用する限りは、まず普通の乗用車で不自由は無いでしょう。

（ケニア国内組立車種等については、自動車選定の目安 ＜別項4-2＞参照）

3. ケニア滞在中の防犯・安全対策

3-1. 住居が決まるまで（家選びマニュアル）

3-1-1. 赴任直後の防犯・安全対策

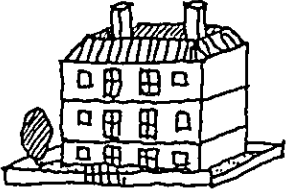

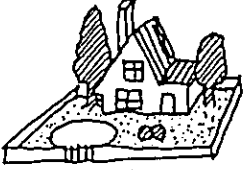
- ・既に長く住んでいる人にアドバイスをもらい行動する。
- ・基本的には、自分一人で行動しない。
- ・一ヶ月程度は、自分で運転せず、運転手を雇い、交通規則や交通マナーの状態を観察する。
- ・夜は絶対に歩かない。
- ・専門家登録カードをJICA事務所に提出すると共に、緊急連絡網のなかで自分の位置を確認する。

3-1-2. ホテル・アパートメントでの滞在

- ・自分以外にも部屋に入る者がいることを忘れない。
- ・貴重品や携行品等は人の目につかない処に保管する。
- ・貴重品等を保管する所がないことが多いため、場合によっては友人に預ける。

3-1-3. 家の選び方

- ・既に長く住んでいる人にアドバイスをもらう。
立地条件等は当地に住んでいる人しか判りません。

住居の種類	 フラット  メゾネット	 一戸建
長所	共同で経済的に安全対策が行える 共同警備態勢が整っている場合が多い 緊急時に助けを得られやすい	個人の自由度大 徹底した安全対策が可能
短所	生活・安全面での個人の自由度小 見知らぬ人の出入りが多い	安全対策はすべて一家族の責任 安全対策費が高価になる

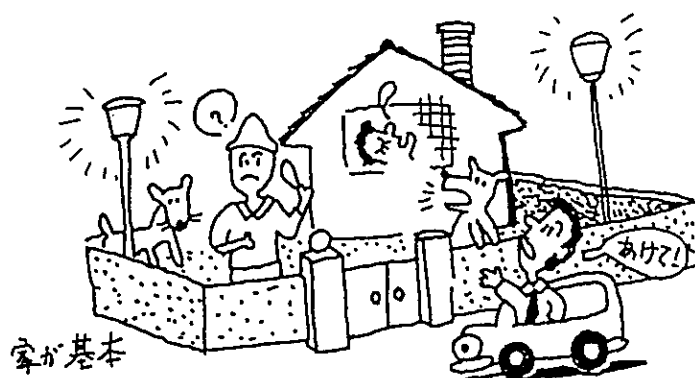
< 住宅の場所選びのポイント >

- ◇集会がよく行われる所やスラムの近く、ウエストランドや市内中心の商店街の近くは避ける。
いずれも騒乱が起こりやすく拡がりやすい場所です。
- ◇日本人が多く住んでいる地域や場所が良い。
情報交換、病気の時の連絡、共同で行う防犯対策や緊急時や夜間の移動が容易になります。
- ◇緊急時に移動の可能性がある場所（空港、JICA、大使公邸、病院、主要ホテル等）に連絡移動、避難が容易な場所を選ぶ。
- ◇乾期に給水が充分でない場所や地域があるので、注意すること。

< 住宅の建物選びのポイント >

- ◇強盗の侵入事例：過去に強盗が入った家は再度襲われると言われています。
長く住んでいる人に聞いてみるのも一案です。
- ◇外壁及び門：外観は侵入が難しく見えしっかりした構造で、外から内部が見えない方が良い。
- ◇建物の周囲：林や空き地に面しておらず、治安のしっかりした住宅敷地に囲まれていること。
隣の警備がずさんであれば、そこから侵入される場合もあります。
- ◇ドア及び窓：ドア本体、窓やドアの枠が頑丈であること。窓には頑丈な鉄格子が取り付けられていること（出来ればガラスの内側が良い）。施錠がしっかり出来ること。
- ◇照明：敷地内の外部に照明が設置もしくは設置が可能で、その照明により賊の隠れ場所がなくなること。
- ◇もし賊が家に侵入してきても、ある程度の時間安全を確保できるような場所や部屋（Safe Haven：何らかの連絡手段を有し、水やトイレを確保できる方が良い）があること。
- ◇電話がすでに設置されていること：新設がほとんど不可能な地域もあります。
- ◇新築物件については、電気・水道の供給状況も確認すること。
- ◇安全対策について理解のある家主であること
- ◇警備状況：アラーム通報システム等が完備していることが望ましい。

・住居選定に当たりアドバイス等が必要な場合には、専門家安全対策委員会まで連絡下さい。



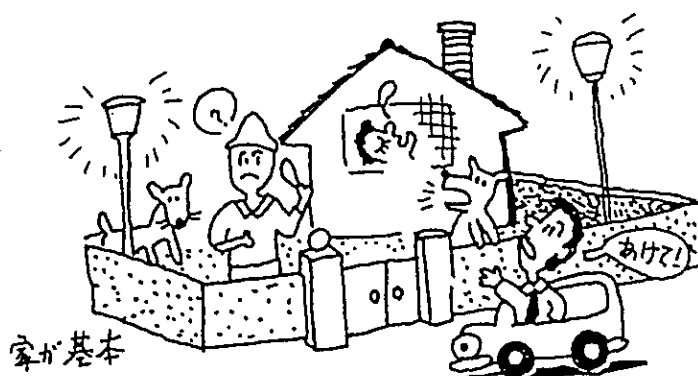
< 住宅の場所選びのポイント >

- ◇集会が良く行われる所やスラムの近く、ウエストランドや市内中心の商店街の近くは避ける。
いずれも騒乱が起こりやすく拡がりやすい場所です。
- ◇日本人が多く住んでいる地域や場所が良い。
情報交換、病気の時の連絡、共同で行う防犯対策や緊急時や夜間の移動が容易になります。
- ◇緊急時に移動の可能性がある場所（空港、JICA、大使公邸、病院、主要ホテル等）に連絡移動、避難が容易な場所を選ぶ。
- ◇乾期に給水が充分でない場所や地域があるので、注意すること。

< 住宅の建物選びのポイント >

- ◇強盗の侵入事例：過去に強盗が入った家は再度襲われると言われています。
長く住んでいる人に聞いてみるのも一案です。
- ◇外壁及び門：外観は侵入が難しく見えしっかりした構造で、外から内部が見えない方が良い。
- ◇建物の周囲：林や空き地に面しておらず、治安のしっかりした住宅敷地に囲まれていること。
隣の警備がずさんであれば、そこから侵入される場合もあります。
- ◇ドア及び窓：ドア本体、窓やドアの枠が頑丈であること。窓には頑丈な鉄格子が取り付けられていること（出来ればガラスの内側が良い）。施錠がしっかり出来ること。
- ◇照明：敷地内の外部に照明が設置もしくは設置が可能で、その照明により賊の隠れ場所がなくなること。
- ◇もし賊が家に侵入してきても、ある程度の時間安全を確保できるような場所や部屋（Safe Haven：何らかの連絡手段を有し、水やトイレを確保できる方が良い）があること。
- ◇電話がすでに設置されていること：新設がほとんど不可能な地域もあります。
- ◇新築物件については、電気・水道の供給状況も確認すること。
- ◇安全対策について理解のある家主であること
- ◇警備状況：アラーム通報システム等が完備していることが望ましい。

・住居選定に当たりアドバイス等が必要な場合には、専門家安全対策委員会まで連絡下さい。



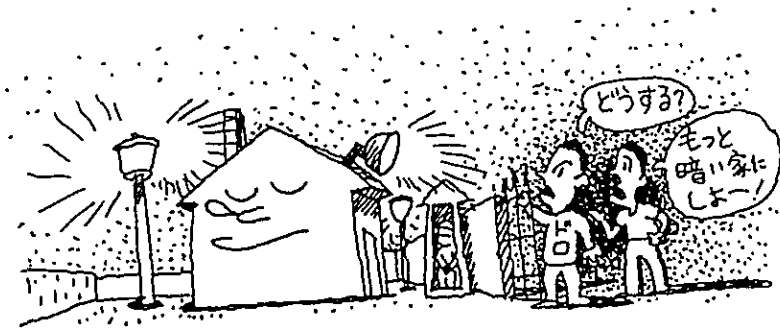
3-2. 日常生活での防犯安全対策 (防犯マニュアル)

- ・日常生活での防犯対策について最も重要なことは、ソフトターゲット (Soft Target) でなく、ハードターゲット (Hard Target) であることです。ハードターゲットとは、強盗等が狙い難い相手や住居等を指し、反対に狙いやすい相手のことをソフトターゲットと呼びます。

例えば、ある家が頑丈な鉄格子を設置したり、あるいはしっかりした防犯対策を立てていれば、その家はハードターゲットであり、反対にその回りの家がソフトターゲットになります。極端な言い方をすれば、自分が他の人や家あるいは車両よりもハードターゲットであることにより、強盗には他のソフトターゲットを狙ってもらうようにするわけです。ハードターゲットやソフトターゲットは比較の問題ですが、よりハードターゲットであるためには、個人的な情報を外部に流さないとか、あるいは強盗の情報 (侵入の手口やパターン等) を集めることも重要です。

3-2-1. 住居の防犯・安全対策

- ・室内、室外とも照明等により明るくすることが重要です。
留守の時でも最小限の照明はつけること。
- ・建物出入り口や寝室の施錠、敷地のガードをしっかりとすること。
- ・警備員の教育をしっかりとすること。
- ・Safe Havenに侵入されて生命を危険に晒さないように、例えば Safe Haven 以外の分かり易い処に安価な電気製品やまとまった現金を見せ金として置くのも一方策です。



◇一軒家における防犯について

- ・最低限必要なものとして以下のものが考えられます。
 - *アスカリ（昼夜の警備員）を雇うこと
 - *数匹の犬を飼うこと
 - *外から内部が見えず、簡単に乗り越えられない柵とすること
 - *窓に鉄製グリルを取りつけること
 - *屋内から外部を照らす数個の外灯（明るい程よい）を設置すること
 - *アラームボタンやパニックボタンを取りつけること（警備会社と契約をすること）
- ・夜間は数カ所の室内はいつも明るくし、特にご主人が出張等で不在の時も、いつもと同じ状態にあるようにすることが必要です。
- ・サイレンや回転灯（パトライト）を設置することは、有効である場合があります。

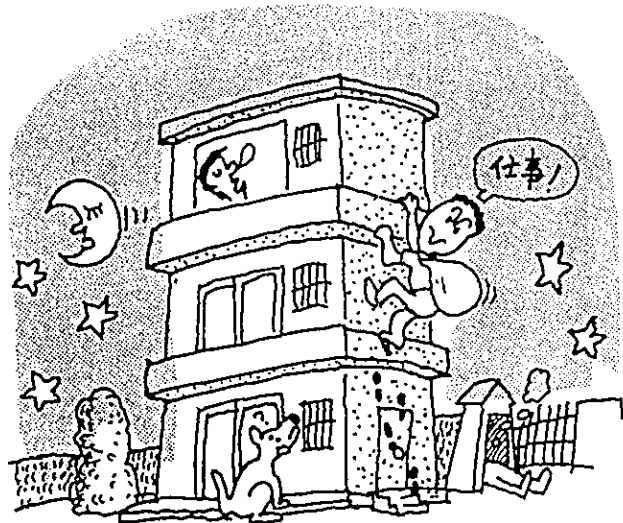
ラビントンに住むH専門家は、庭付き一戸建が好きで借りていたのですが、1992年に2回も強盗に侵入されかかり、ついにリバーサイドパークへ引っ越しました。いずれも警備会社セキュリティコへの通報が早く大事には至りませんでした。二回とも鉄格子の門の扉を破壊し侵入しようとした。一回目はアスカリは家の裏へ逃げ役に立たなかったのですが、犬が吠えたため犯行が気付かれ、二回目はアスカリが早くに気付きアラームを押したため、難を逃れたようです。因みに警備会社は呼んでから5～10分程度で駆けつけたのに対し、警察は1時間以上たって来たそうです。

◇メゾネット、フラットの防犯について

- ・夜間の照明、施錠を忘れず、鍵の保管に注意する必要があります。1989年7月午前3時頃、ウエストランドのフラットで、2階の窓の施錠の不備を付いて賊が部屋に侵入し、ビデオデッキとビデオカメラを盗むという事件がありました。キレレシオワのメゾネットでも、1992年7月に一度に同じ敷地内で、3戸同時に強盗に襲われ、電化製品を持っていかれました。また駐車場荒らしの例も結構あります。

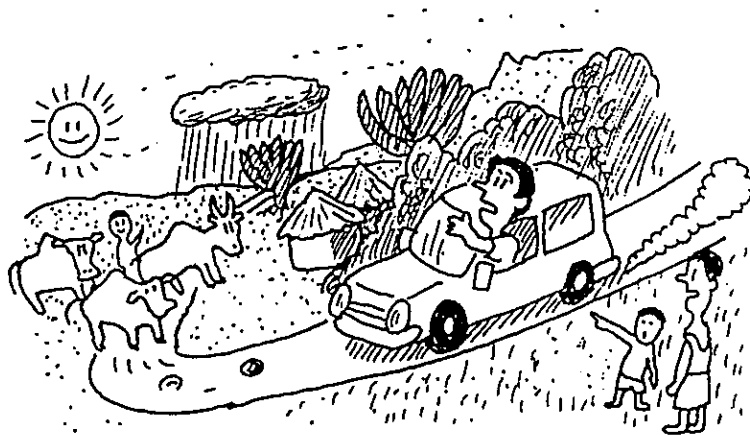
◇ホテル内のアパートメントの防犯

- ・メゾネット、フラットの場合と同様ですが、侵入や盗難事件が2階以上でも発生していることに注意が必要です。留守の場合でも照明は付けましょう。1991年10月午前4時頃、フェアビューホテルの長期滞在用アパートメントの3階に住む専門家宅に泥棒が入り、カメラ、双眼鏡、現金を盗まれました。賊は内鍵を掛け忘れていたベランダから侵入し、窓から逃走したそうです。



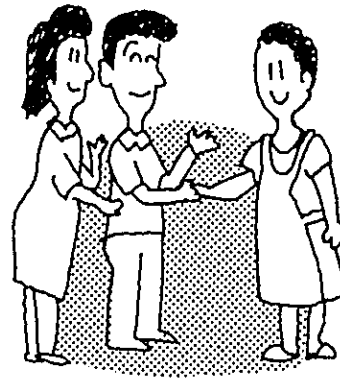
3-2-2. 業務における防犯・安全対策

- ・危険な地域には行かないこと。ソマリア、エチオピアの国境近くや北西部では、強盗や部族闘争が頻発しています。
- ・車での出張では、極力ドライバーを連れていくこと。慣れない場所での運転は疲れるし、もしもの時には人数が多い方が良い。
- ・夜間の走行は避ける。道路はデコボコが多く、動物や人が飛び出してきたり危ない上に、強盗に遭う危険性が高くなります。ナイロビ～モンバサ間の道路では、夜間車が故障したら、停車中に襲われ危ないと言われる地区があります。
- ・出来るかぎり残業は避け、明るいうちに帰宅すること。
- ・出張時には、無理な行動でないか確認する。ケニア人に行程を任せただけの場合には、結果的に深夜まで行動することになってしまう場合が多いため、注意する必要がある上、車のバンク等予期せぬトラブルは時々起こります。
- ・田舎に行くとき道端を家畜がよく通っており、徐行する必要があります。車の音に驚いて、突然車の方に向かって走り出てくる場合があります。
- ・仕事の関係で極めて行動パターン化している人は、時には行動パターンを変えたりすることにより、周囲の状況や使用人の勤務状況をチェックすることも効果的です。
- ・銀行へ出向いた場合は特に注意が必要です。邦人でナイロビ市内の銀行から、滞在先の田舎まで追跡され、襲われたこともあります。
- ・自宅だけでなく、勤務先の事務所における盗難にも注意する必要があります。
- ・長距離（片道 100 km 以上）の場所に出かける場合は、JICA事務所に届出が必要です。近くの邦人や関係者にも忘れることなく、一言かけて出かけましょう。



3-2-3. 生活上の防犯対策

- ・ 一般的使用人としては、アスカリ（ガードマン）、メイド、ドライバー、シャンバ（庭師）、コック、アーヤ（子守）等が考えられます。使用人に関しては、信頼関係を築くことが大事ですが、同時に言うべきことははっきり言い、雇用者としての威厳を保つようにすることも大切です。給与の質上要求、ちょっとした盗み、遅刻や無断欠勤、頻繁な前借り等のことでイライラすることも度々あります。このようなイライラが精神的負担となり、交通事故等を引き起こすこともありますので、注意して下さい。



- ・ しかしながら余り頭ごなしに叱らず、一人の人間として接していくことも大切です。使用人を敵に回して恨まれると、以下の例のような仕返しをされる可能性があります。

◇アスカリ、メイドが強盗の手引きをする。家族の留守の情報を流したり、鍵のコピーを造らせる。メイドの場合には家族の留守中に、見ず知らずの男（女）友達を連れ込んだりすることもあります。

◇ドライバーの場合には、例えば自分で空気を抜いた後、パンクしたことにし、パンク修理代を請求したり、新しいタイヤを売って古いタイヤと取り替えたり、あるいはまた、空いた時間に白タクをしたりすることがあります。

H 専門家は、離れの貯蔵庫に置いてあった買い置きのジュースの中に砂を入れられたり、車庫のスペアタイヤを盗まれたりしました。

- ・ 使用人には、知らない人間を敷地内や住宅内に入れないように指導し、ゲートや玄関には鍵を掛けておくようにすることが必要です。

警察・水道・電気・電話局等と称して、高額な料金やワイロを請求したり、時には居直り強盗に変身することもあります。そのため家族の者が在宅中に再訪してもらうよう使用人に指導する必要があります。

また在宅中の場合でも、相手に身分証明書等の提示を求めたり、訪問の必要性をしっかりと確認することが重要です。

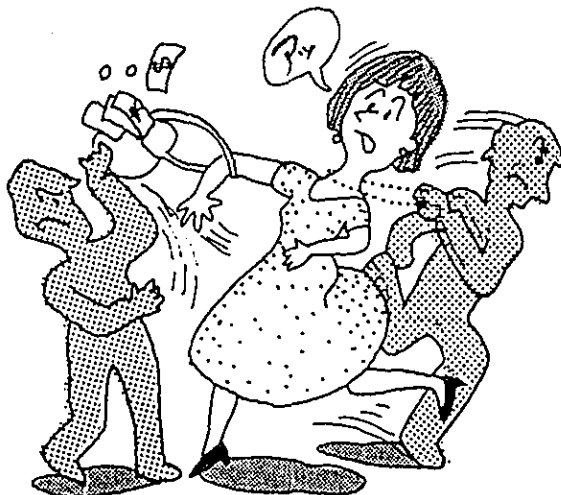


- ・ 電気や水道の修理のための作業員が家の中に入ることは避けられませんが、注意しないとラジオやメガネ、あるいは現金を取られたりする場合があります。
- ・ メイドには、衛生面の指導を行うことも必要です。床を拭いた雑巾で食器を拭いており、解雇したというケースもあります。

- ・ 使用人には極力友人の住居や電話番号といった、個人情報をお教えしないようにすることが必要です。従来までは非常時に備え、電話等の通信方法が無くなった場合のため、日頃から近くの邦人宅をお教えしておいて、使用人に手紙等を届けてもらうことが有効な手段であると言われたこともありました。しかしながら、最近特に日本人のような金持ちを狙う強盗犯罪が増えており、内部の者による犯罪手引きを防ぐ意味から、お互いに個人情報は使用人等にできるかぎり流さないようにする必要があります。

- ・ 使用人を採用する際には、少なくとも身分証明書や運転免許証のコピーを入手し、必ず身元の確認をすることが重要です。

- ・ 歩くことは基本的に避け、出来るかぎり車を使用すること。市内であってもひったくりや強盗が起っています。ご婦人場合は安物であっても、ネックレス、イヤリングを付けての買い物は避けた方が良いでしょう。市内中心部は、駐車場もないのでドライバーを連れ目立たない格好で行くのが良いでしょう。1992年には、挑発的な服装をした女性旅行者が白昼街中で複数の人に服を破られケガをし貴重品を奪われる事件がありました。



- ・ 人通りが多い、ごみごみした処での買い物には十分注意が必要です。出来るかぎり二人以上で出掛け、立ち売りに注意しなければなりません。モイアベニューより東側、シティーマーケット、ヒルトンホテルやハーリングムの周辺では注意が必要です。花や果物を売る立ち売りには、はっきりとした態度を示さないと、取り囲まれてしまう可能性があります。



- ・ 道路脇の野菜店では買物をしないこと。土曜日の夕方、人通りが少ない時に車両強盗が発生しています。1992年6月アダムスアーケードの近くで白人の婦人が車両強盗に遭い、拳銃で撃たれ死亡しました。同じ頃カジノ近くの道路端の店で、国連の職員が車両強盗に拳銃で撃たれ、命を落としました。いずれも店の近くに駐車して買い物中に、拳銃を突きつけられ、車の鍵を要求されたものの拒否した結果殺されたものです。

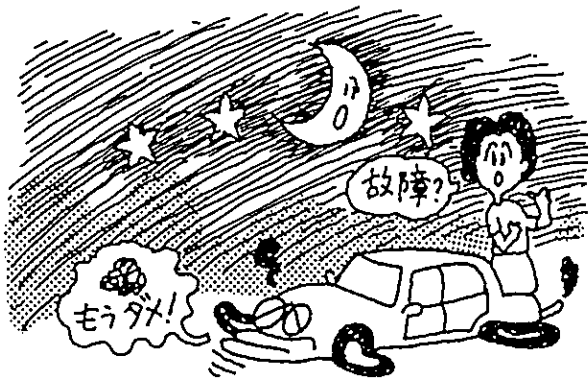


- ・公園には昼夜共行かないことが無難です。1991年9月土曜日の白昼、シティーパークを散歩していたM専門家は、肩に掛けていたカメラを強奪されかかりました。彼は犯人に組み付いてカメラを奪回しましたが、その格闘中下唇に怪我を負いました。公園は木立等が多く、浮浪者や犯罪者の絶好の隠れ家になっています。その専門家はまた着任して日も浅いうちに、観光ガイドブックを見て出かけたのですが、当然のことながらガイドブックにはこういった事件に関する情報は載っていません。



- ・スラムやアフリカンマーケットには絶対に近づかないこと。通路が非常に狭く、迷路のようになっています。
- ・外出の時は、パスポートか身分証明書のいずれかを携帯すること。ナイロビ市内ではコピーでも良い。ケニアの警察は逮捕状が無くても、いつでも誰でも逮捕できる権利を有しています。当国の法律を遵守していれば問題ありませんが、時に逮捕されることがあります。外国人は、パスポート、身分証明書のいずれかを携帯する義務があり、違反した場合は投獄あるいは罰金の刑に処せられます。

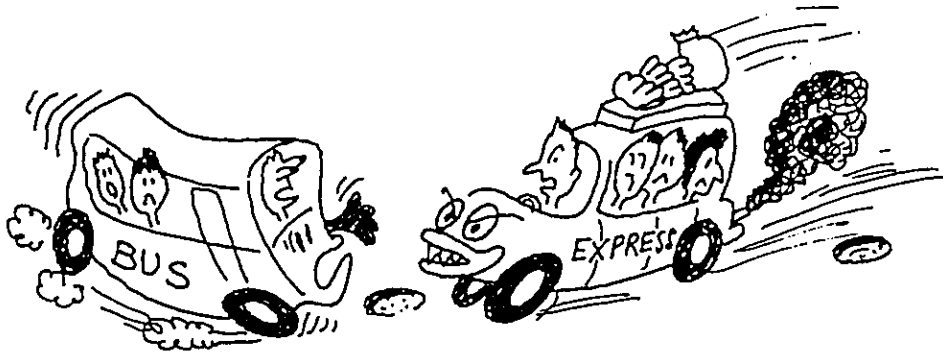
- ・夜間の外出はできるだけ避けること。出掛ける場合には必ず車で移動すること（複数の車ならより安全）。また訪問先には事前に電話連絡をしておくべきです。夜間車が故障しても、公衆電話はほとんど無く、民家とて他人にはまず門は開けてくれません。



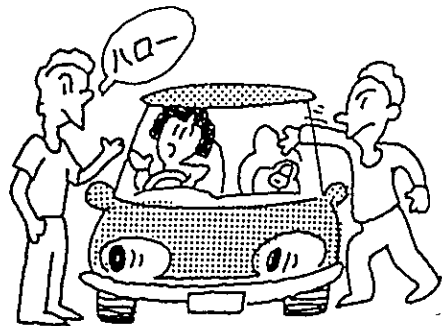
- ・公衆電話の掛け方を知っておくこと。ケニアの電話は、2シリング以上必要で、電話が繋がってからコインが落ちる仕組みになっています。小銭の用意が充分に無い場合には、通話先から公衆電話に掛けて呼び返すことができるので、公衆電話の番号を相手に知らせる方法もあります。（市外通話では特に有効）公衆電話が無い場合や故障中の場合は、近所の商店に頼んで使わせてもらうことや、ホテルの電話等を利用すると良いでしょう。

3-2-4. 自動車運転時の防犯安全対策

- ・シートベルトの着用を習慣づけましょう。ケニアでは着用が義務づけられています。ケニアでの車両あたりの交通事故死亡率は、日本の33倍という統計もあります。
- ・雨季には極めて激しい雨が降ります。路面の状況をよく見て、車の速度に注意しましょう。
- ・運転手には、日頃からスピードの出し過ぎ、車間距離の確保、無理な追い越しや急な車線変更の禁止、スラム等の危険地域はできるだけ通らないように指導する必要があります。
- ・できる限り自分で運転することなく、運転手を雇った方が無難です。 その場合には後部座席に座ること。 特に小さい子供を同乗させる時は注意が必要で、交通事故で亡くなったり、負傷したケースがあります。
- ・ケニアでは特に交通事故の可能性が高く、その原因は道路の状態が悪いこと、車両の整備状況が劣悪で、運転マナーが悪いためです。道路はバンブスや陥没している点に注意して下さい。特に舗装道路が陥没しているところは、バンクを誘発します。 車両に関しては、まともな車はほとんど無いといって良いほどで、ブレーキがまともに効かなかったり、坂道での超低速度車、カーブ等見通しの悪いところに停車中の故障車、突然タイヤがはずれたり車軸が折れて急停車する車、前が見えないくらい黒い排気ガスを出している車等には、要注意です。
- ・運転マナーで注意すべき最大の車両はマトツ（小型バス）です。 マツツの運転は無茶苦茶で急停車急発進、急な方向変更、路肩走行は日常茶飯事で、マトツが関係した事故が頻発しています。事故に関係した車両は、事故調査等のため長期間警察に保管され、その間にカーステレオ等の盗難が起きる可能性も出てきます。



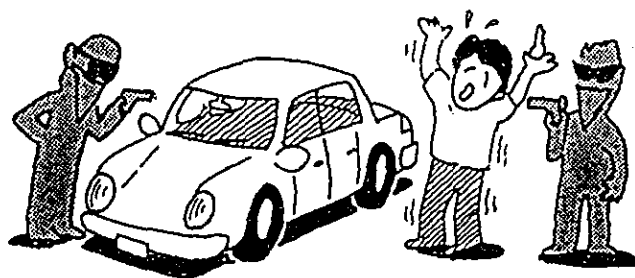
- ・一人で運転する場合には、すべてのドアをロックし、窓はなるべく開けないようにし、停車時には周りの人の動きに注意することが必要です。1991年10月パナフリックホテル近くの交差点で、信号待ちをしていた白人の婦人（一人）が運転する乗用車に、二人が運転席と助手席の両側から忍び寄り、運転席側に婦人の注意を引きつけておいて、助手席のドア開けてバッグを強奪しました。賊は二人以上で連係プレーを取ることに注意が必要です。



< ケニア安全対策マニュアル >

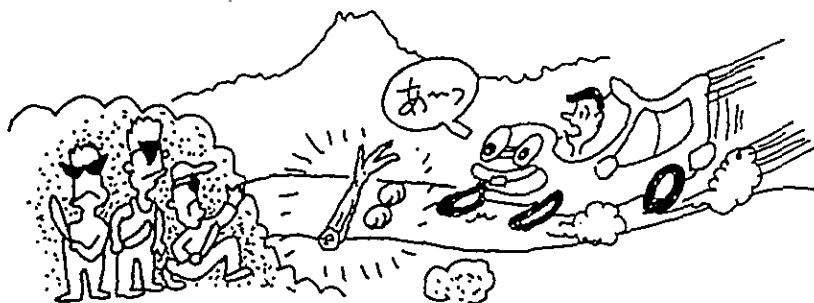
- ・複数の人間が組織的にサギを働く手口もあるようです。ナクルの方で、道路脇の人が次々に運転手に車が変だと指を差して訴え、停車した車に人が集まり部品等を取られたという話があります。
- ・マタツ、白タクは利用しない。ケナトコタクシーまたはロンドンタクシーを利用した方が安心です。マタツはスリに遭いやすく、白タクは法外な料金を請求されることがあります。
- ・駐車する時は、運転手を残しておく。自分で運転する場合にはアスカリの目が届くところに駐車すること。被害は車荒らしや強盗だけでなく、例えば排気管にジャガイモを詰めて車の調子を悪くさせた後、修理するふりをして法外な工賃を請求する例もあります。

- ・地下駐車場などに駐車しないこと。ヤヤセンターの地下駐車場では、強盗事件が発生して多数の車が盗難に遭いました。



- ・ゲートでの出入り、車の乗降の際には不審な車や人が近づいていないか等、周囲の状況に注意することが必要です。門が開くまでの待機中や、車を車庫に入れる時に、拳銃を突きつけられて車を奪われる事件が発生しています。

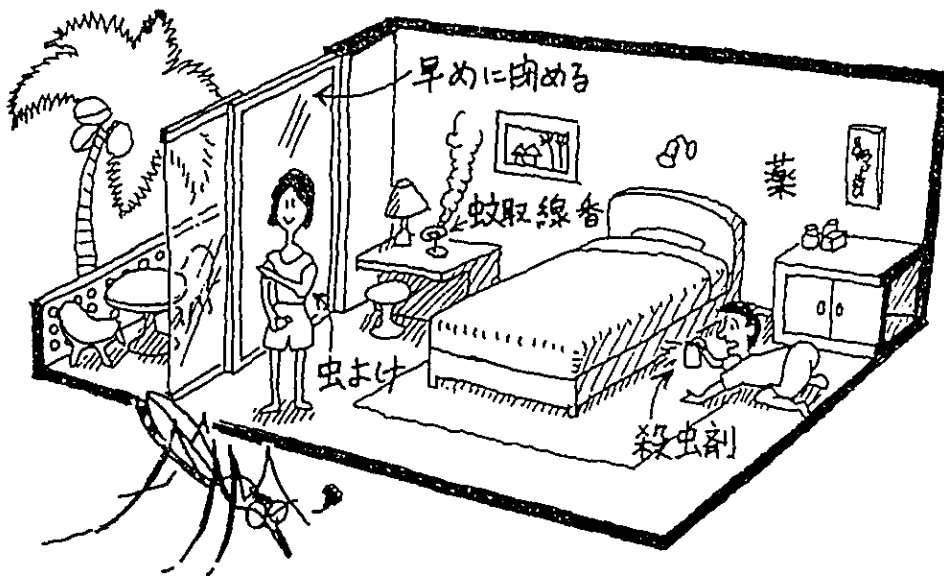
- ・深夜道路上で人に停車を求められても止まらない。郊外では昼夜にかかわらず、大きな石や丸太等が置いてあったら、直ちに引き返すこと。いずれも車強盗の手口です。



- ・ガソリンはレギュラーでなくハイオク（スーパー、プレミアム、エキストラ等）を使用した方がエンジンに悪影響がありません。ガソリンスタンドの評判、悪質な店などの情報を得て、信頼のおける店を利用すること。
- ・非常停車標識（三角マーク）は法律により2個常備することが義務づけられています。
- ・以下の物は車に常備した方が良いといわれています。
牽引ロープ、懐中電灯、バッテリーブースターケーブル、スペアタイヤ、ジャッキ、工具（最後の3項目に関しては本来車に付属している物ですが、輸送中や修理工場で盗まれる場合があります。）

3-2-5. 旅行での安全対策

- 早朝、深夜発着の飛行機便の利用は極力避ける。空港への道路において、各種の強盗事件が発生しています。
- 1992年前半には、マサイマラ、アンボセリ、コーストで、旅行者用の観光ツアーバスが、武装強盗団に襲われ、旅行者や運転手共々身ぐるみ剥がされるという事件が頻発しました。新聞やテレビ等で十分情報を仕入れて旅先を選定し、できるかぎり2台以上で出かける方が安全です。いよいよ危険な時は、国立公園内であればレンジャーがいますので、必要に応じて雇う方が良いでしょう。
- 旅行中の滞在先は多少値段が高くとも信用のおけるホテルを利用することをお勧めします。ホテルでの滞在中は、貴重品の保管には十分な注意が必要です。
- ナイロビより高度の低い地域（特にコースト、ビクトリア湖周辺）では、マラリアに対する対策が必要です。蚊取り線香、肌に塗る虫除けの薬、窓の回りやベッドの下に散布する殺虫剤等です。コーストのリゾートホテルでは、あまり蚊は見かけないことから、薬は飲用せず、虫除けや殺虫剤、あるいは蚊取り線香に注意を集中する人もいます。蚊は雨季に発生し易いといわれますが、過度に神経質にならず、しかし予防を万全にすることが必要です。特に夜間には、長袖の服装は防虫に効果があるといわれています。



3-3. 緊急時の処置と対応（パニックマニュアル）

3-3-1. 病気・ケガ時の対応

- ・まず、身近な邦人に連絡すること。 常時電話番号簿を所持していることが必要です。
- ・なるべく私立病院で受診すること。国公立病院は設備や衛生面の問題から信頼できません。主要都市の主な病院は以下の通り。
 - *ナイロビ - ナイロビホスピタル、アガカーンホスピタル、MPシャーホスピタル
 - *モンバサ - アガカーンホスピタル、モンバサホスピタル
 - *キスム - アガカーンホスピタル
 - *エルドレット - ナーシングホーム

<ナイロビでの救急時>

ナイロビ病院の救急窓口は予約不要。
デポジットが必要ですのでお金を忘れずに。
(詳細については、ケニア事務所からの『ケニアの医療についての案内』参照)
またナイロビには、プライベートの救急サービスもあります。
<4-5. 緊急時連絡先 参照>



<地方での救急時>

フライングドクターサービスの制度により、緊急時には飛行機でナイロビの病院へ移送することができます。
* African Medical & Research Foundation (AMREF) - Flying Doctors' Society of Africa
<4-5. 緊急時連絡先 参照>

3-3-2. 強盗被災時の処理と対応

- ・強盗も緊張しており、まず相手を刺激せずリラックスさせることが肝心です。
- ・車強盗に襲われたら、生命優先で相手に鍵を渡すこと。今までの事例では、拒否した場合その場で撃ち殺されています。
- ・自宅へ強盗が来た場合にも生命優先です。相手の好きなように物を持っていかせます。もし寝室にいて物音がしたら、じっとして部屋を出ない方が安全です。寝室から電話や警備会社に連絡ができる場合のみ、連絡します。また犯人の顔は極力見ないようにする方が良いといわれています。口封じに殺される可能性もあります。



3-3-3. 交通事故時の処理

- ・軽微な物損事故の場合は、当事者間で金で解決するのであれば、そのようにした方が良い。それ以外の場合は、車を動かさず警察や保険会社へ連絡することが必要です。しかしながら以下のような事例もありました。全面的に相手方が悪く（運転者はケニア人で同乗していたのがインド人）、先方は無免許だったこともあり、先方の願いを聞き入れて警察へ連絡することなくその場で免許証の番号や住所を控えて、翌日訪ねたところ、「知らぬ存ぜぬ」に豹変し、結局自分で高額な修理代を払わされることになったものです。
- ・事故で負傷した場合は、信用のおける病院へ連れていってもらよう病院を指定し、身の回りの貴重品や重要書類をを忘れずに持ち出すことが必要です。
- ・人を負傷させた場合は、一般にはその場では止まらず、最寄りの警察へまず行き、JICA等へ連絡することが必要です。被害者が死んでいる場合、近くの住民からリンチを受け、殺される可能性もあります。またある専門家の例では、地方へ出張中人を跳ねたため、車を止め被害者を捜したものの見つからず、警察等へ行っている間に、車両が荒らされたということもあります（当たり屋と車両荒らしがグルとの見方もあります。）

3-3-4. 騒乱・暴動時等の対応

- ・基本的には現場には近づかず、家で待機して、事務所からの指示に従うことが重要です。騒乱等の拡がりはとても早く、しかもそのような時に限って道路は渋滞するようです。今までの例では、商店や車への投石、商店の略奪や焼き打ち、警官による発砲等が起きており、白人ですら警官に殴打されています。またナイロビ大学の学生が、突発的にデモを起こし、車両に投石する事件もありました（1992年6月）。



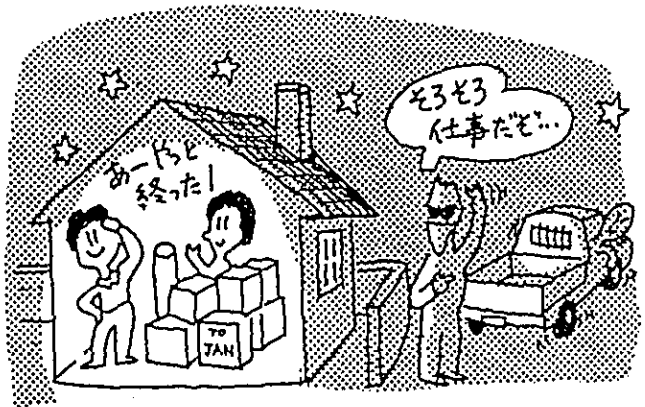
・騒乱や暴動が発生した時の緊急避難に備え、以下の物を常備しておく必要があります。

- 1)重要書類（パスポート、カード、車の登録証）
- 2)電話番号簿
- 3)地図
- 4)現金（一人 US \$ 2000. 程度）
- 5)水（ミネラルウォーター数本、空き瓶3本）
- 6)食糧（数日分、加熱しないで食べられる物）
- 7)薬（風邪薬、整腸剤、栄養剤、外傷薬等）
- 8)ラジオ、懐中電灯（乾電池とも）
- 9)車の燃料（タンクに常時半分は残っている状態他に金属タンク一缶程度保管する。ガソリンをポリタンクに保管することは非常に危険です。）
- 10)マッチやロウソク
- 11)乳幼児のミルク、哺乳ビン、オシメ、下着等
- 12)着替え、防寒衣料（空港等での夜明しの為）



3-4. 帰国前における注意事項

・引っ越しや、帰国を事前に回りに知られないよう、準備には極力注意しましょう。引っ越し直前や帰国直前の荷物の整理中に強盗に入られる事件が多発しています。1992年5月末、JICAのK所員は2年間ホテル住まいをしていたのですが、帰国のための荷物を整理し終えた直後、泥棒に貴重品（トラベラーズチェック、現金等）を盗まれました。これは明らかに帰国予定を知った従業員が関与しているものと推定されます。



・帰国一ヶ月前位からの行動は慎重に、特に交通事故に注意しなければなりません。帰国直前になると、行き忘れた観光地へ行こうとか、土産物を買集めに回るとか、色々なことを考え、つい安全に対する注意を怠りがちです。強盗に対する注意や、交通事故には特に注意して下さい。1989年帰国直前の専門家夫妻が、ナクル方面から車で帰宅途中、交通事故で死亡する事件がありました。彼らはナイロビでの専門家会へ参加しようとして急いでいたようで、運転手を後部座席に寄せ、自ら運転していたそうです。

4. 参考資料

4-1. 防犯用器具について

◆ラジオ等

防犯用品というより、安全対策の上から情報収集の手段として、日頃からニュースなどを聞く習慣をつけましょう。ケニアでは、NHKの海外向け日本語放送（ラジオジャパン）やBBC（イギリス）等のアフリカ向け短波放送が、良好に受信できます。

タイマーや放送局別プリセットができるなどの機能のついた、操作の容易なものが便利です。テレビ放送は、ナイロビでは2局受信でき、うち1局はアメリカCNNニュースを中心に24時間放送を行っています。ケニアは日本と放送システムが異なり(PAL-I)、日本仕様のテレビ(NTSC)では受信できません。日本のビデオも見られる場合は、両方のシステムが使える機種が良いでしょう。ケニア国内でもマルチシステムのテレビは購入可能ですし、価格は日本で購入して航空便で送る場合を考えるとほとんど変わりません。

◆留守番録音電話（アンサーング・テレホン）

留守中の緊急連絡を受けたり、相手の声を確認してから応対ができることから、安全・防犯上にも有効なものです。ただし防犯の上から、英語による長期不在等の不要なメッセージは避けなければなりません。ケニア国内での入手は困難なため日本での購入が良いでしょう。

日本で使っている電話機はそのままケニアでも使用できますが(MI式)、DCアダプターを使う際にはトランス（変圧器）の使用または、240V用のアダプターへの変更が必要です。ただし回線接続クイックコネクタは形状が合わないためそのままでは接続が難しく、市販のローゼット式（一方のコードの先がねじで止めるタイプ）への接続コードまたは、モジュラーボックス（コネクタを差し込むボックス）のどちらかがあれば接続は簡単です。

◆その他の防犯用器具

その他の防犯用器具として、投光灯、回転灯、サイレン、赤外線感応スイッチ等もありますがケニアの電圧に合った器具の日本国内での入手は困難なこと、入居先の状況が分からないことに加え、これらの防犯用器具がほとんどケニアで購入可能ですので、入居先の状況に応じて必要と思われるものを、ケニア国内で購入されるのが良いでしょう。

（ケニアで購入可能な防犯用器具の例；ほとんどは輸入品）

- 施錠用品 : 錠前（南京錠）、チェーン、ドアロック、ドアチェーン、ドアスコープ、
- 照明器具 : 懐中電灯（電池式・充電式）、投光機、自動点灯照明、停電時照明、各種照明器具、配線材料、
- 電源機器 : 電圧安定器（レギュレータ）、変圧器（トランス）、無停電電源装置、各種充電式電池、太陽電池パネル、タイムスイッチ、自動点灯スイッチ、英式電源プラグ・コンセント、
- 防犯装置 : 家庭用防犯システム、自動車用防犯装置、サイレン、回転灯、

4-2. 自動車選定の目安

- ◆一般に、ケニアの主要道路で使用する自動車としては、普通の乗用車で充分です。3～5年の中古車で、ケニア国内組立車と同型式なら修理部品の入手も容易なので、無難な選択といえるでしょう。しかし、自動車の選択は、その使用目的や予算の問題もあり、以下の各項目についてのコメントを参考に、個人の好みで選択して下さい。

◇車種

一般的には、構造が複雑でない車で、修理部品のケニアでの入手が容易な車種が無難。現地生産車種・型式車ならほとんどの部品はケニアにあります。修理部品（消耗品・保安部品）を持って来るならどんな車でも結構。

< ケニア国内現生産車種 > 日本国内車名による ()内は旧生産車種
TOYOTA カローラ EE90 AE92 (KE72)、ハイラックス YN85 LN106 (RN65)、ランドクルーザー BJ/HJ75
NISSAN サニー HB/WB12 (WB11)、ピックアップ B120 CGD/HMD21
ISUZU (アスカ ****)、ビッグホン UBS52、ファスター KBD52
MITSUBISHI ランサー C61/62A、パジェロ L047 | DAIHATSU シャレード ** (B11)
MAZDA ファミリア 323NB/SW | HONDA シビック ****
SUBARU レオネ AA7 (AA5) | SUZUKI ジムニー SJ40

◇新車/中古車

予算しだいです。高い車は車両保険代も高いこともお忘れ無く。中古車なら3～5年くらいの車が標準。車検切れ車の購入が経済的。

- ◇車体形状（セダン/クーペ/ステーションワゴン/バン/ワンボックス）
使用目的に応じて個人の好みで選んで下さい。貨物車にはケニアで毎年車検が必要。

◇二輪駆動車/四輪駆動車

使用目的と予算に応じて個人の好みです。ほとんどの道路は二輪駆動車で充分走れますが、雨期のナショナルパークの道路等の悪路を走行するには、四輪駆動車が必要です。

◇ガソリン車/ディーゼル車

燃料不足の問題は今のところありません。燃料代はそれほど変わりません。(18:15)

◇オートマチック/マニュアル車

オートマチック車も普通の運転をする限りまず壊れることは無いので、特にマニュアル車にこだわることもありませんが、万一故障の際にはマニュアル車の方が修理可能かも知れません。

◇スーパーチャージャー・ターボエンジン車

特に問題ありません。ナイロビの標高は 1,700 m 普通のエンジンは約2割出力低下します。ディーゼル車の場合ターボが付いている方が使い良いでしょう。

◇タイヤ・ホイール

磨り減っていなければ普通のタイヤで充分です。扁平タイヤは痛めるのでお勧めしません。外径の大きいタイヤ・ホイールは一般に悪路では効果があります。チューブレスタイヤは修理キットがあれば自分でも直せますが、修理してくれる店は少ないので、心配な方はチューブや修理キットの用意をして下さい。

◇消耗品・修理部品

フィルター類、ベルト類の消耗部品は最小限用意した方が良いでしょう。ブレーキ関係の消耗品（パッド、シュー）も少なくとも一組は用意して下さい。特にケニアで組立していない車種については、余分の消耗部品の用意が必要です。

◇車体改造（悪路走行をする場合等）

ヘッドランプ : ハロゲンバルブに交換し、焦点調整を行えば安心です。
ショックアブソーバ : 4年以上の古い車は交換しておいた方が良いでしょう。
アンダーガード : 寒冷地用部品としてオイルバンガードが設定されている車種があります。2枚重ねればアンダーガードとして十分な強度があります。

◇その他

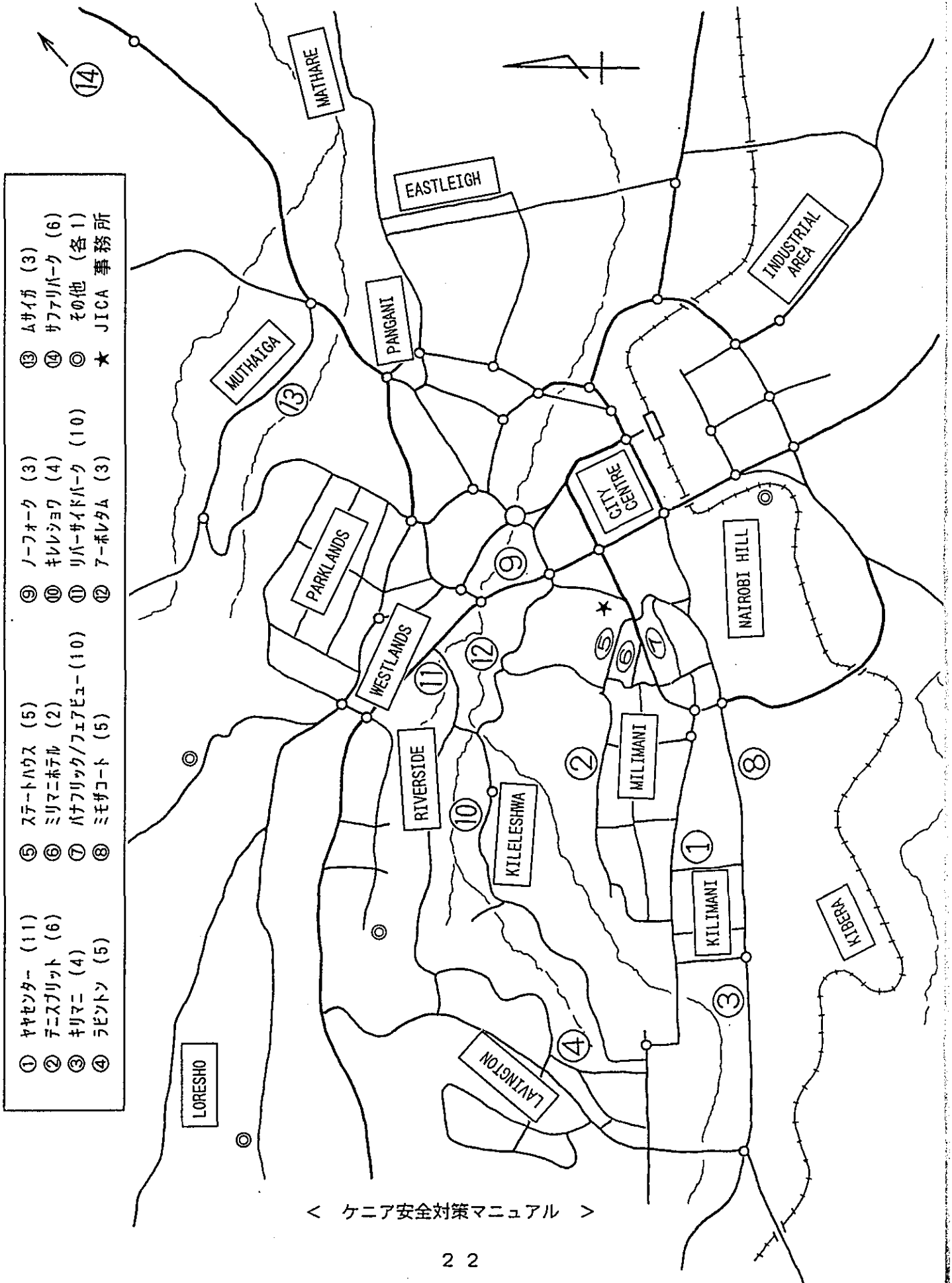
エアコン - - - - - 必要です。
パワーウィンドウ - - - 特に問題ありません。
カーステレオ - - - - - 泥棒も好みます。
盗難防止装置 - - - - - ケニアに各種あります。(車両保険加入にも必要)

< ケニア安全対策マニュアル >

テレビ・ラジオ 放送時間/周波数表

(Station)	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	< 備考 >	
TV : KBC												Ch 4									土・日 12:00 ~
TV : KTN		Ch 59	62																		終日放送
KBC Genl. Svce.																					(英語)
KBC Natl. Svce.																					(スワヒリ語)
Radio Japan		17820 kHz													21700 kHz						(日本語)
BBC											21470 kHz			15420 kHz							(英語/スワヒリ語) (英語)
日本大使館																					周波数・放送時間 未定 (92.11 頃~)

4-4. NAIROBI 市街地・住宅地 地図 (専門家地区別緊急連絡網配置図)



■ 主要電話番号・緊急時連絡先 ■

国際番号通話 (ISD)	日本 : 81 0 (取次市外局番)				
	000 + (国番号) + (地域番号) + (局番・電話番号)				
International General Information	国際通話案内	0191			
International Call (Operator)	国際通話交換	0196			
Operator 交換手	900	Inquiry 総合案内	992	Fault Report 故障	997
Telegram 電報	990	Time (E) 時報 (Eng)	993	Ring Check 呼出試験	998
Directory 番号案内	991	Time (S) 時報 (Sw)	994	Emergency 緊急	999
JICA ケニア事務所	7 2 4 1 2 1				
JICA タンザニア事務所	0 5 1 - 3 7 4 0 3				
日本大使館	3 3 2 9 5 5				
J. K. AIRPORT (FLIGHT INFORMATION)	8 2 2 1 1 1				
Milimani Hotel	720760	Hilton Hotel	334000		
Panafric Hotel	720822	Inter-continental	335550		
Serena Hotel	725111	Six-Eighty Hotel	332680		
Nairobi Hospital	7 2 2 1 6 0				
Aga Khan Hospital	7 4 7 6 7 6,		7 4 2 5 3 1		
M. P. Shah Hospital	7 4 2 7 6 3				
Getrude's Gardens Children's Hospital	7 6 3 4 7 4				
AMREF (Flying Doctor)	3 3 6 8 8 6,		5 0 1 2 8 0		
Nairobi Ambulance Accident Service	2 2 2 1 8 2,		2 2 2 2 2 2		
St. John Ambulance Accident Service	2 2 4 0 6 6,		2 2 2 3 9 6		
AAR Health Services (救急車)	3 3 7 5 0 4				
Automobile Association of Kenya (AA)	7 2 0 3 8 2				
* 自動車保険会社 :					
* 最寄りの警察署 :					
* 勤務先 :		Tel.			
* JICA担当所員自宅 :		Tel.			
■ JICA緊急連絡網連絡先 ■					
* (a) 勤務先別緊急連絡先 :		宅 Tel.			
* (b) 地区別緊急連絡先 :		宅 Tel.			

